



下大和田・小山町谷津田だより -2026年2月No.288号-

【活動報告】

＜下大和田での活動＞ 写真：田中正彦

第312回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い 2026年1月11(日) くもり・強風

報告：田中正彦

1月は生きものたちにとって命の危機にさらされる季節でしょう。草花の多くは地上部を落とし、種や地下部を残して冬を乗り切ります。昆虫たちは卵を残したり、土や木の中に潜んだりしてやり過ごします。淋しい季節かと思いきや、この時期にだけ観られる生きものがいます。アオジやカシラダカ、ツグミなど冬鳥と呼ばれる鳥たちです。シジュウカラやエナガ、メジロなどの小鳥たちが「混群」を作ってにぎやかに現れるのもこの季節です。



この日は冬鳥を求めて、鹿島川合流部まで真冬の谷津を散策しました。強風が吹き荒れていた影響か、アオジやカシラダカがちらほら姿を見せる程度で、期待したほどではありませんでした。それでも参加者たちは、ウラシマソウの仲間のカボチャのような形の塊茎を見つけて興味津々。壊れそうな橋を渡ったり、水辺に張り出したフジづるのブランコを楽しんだりと、ちょっとした探検気分で冬の谷津を満喫しました。

参加者18名（大人12名、大学生1名、高校生1名、小学生3名、幼児1名）

下大和田もちつき大会 2026年1月12日(月) 快晴

報告：中沢理奈

この日は餅つき大会を開催し、多くの参加者で森が賑わいました。寒い朝でしたが、大人は火を管理する人や鍋を用意する人などに分かれて準備に励みました。子どもたちはブランコで大はしゃぎ。その合間に料理を手伝ってくれた子もいました。



もち米は昨年復田した田んぼで収穫した古代米の緑米と黒米を4kg、さらに4升にするために市販のもち米を2kg使いました。また、皆さんが持ち寄ったたくさんの野菜やアジ、サバ、ウルメイワシの干物、そして餅の具材が揃いました。お味噌汁と餅の準備が終了し、いよいよ餅つきが始まりました。2升ずつ2回に分けて行い、経験者から子供までが掛け声とともに杵を振りました。ついた餅は醤油、きな粉、あんこ、大根おろし、そして納豆で食べました。お雑煮にするのも人気でした。つきたては柔らかくてとても美味しかったです。

片づけが終了すると、最後に記念写真を撮ってから解散しました。晴天の下での楽しい餅つき大会になりました。ご馳走さまでした。

参加者30名（大人18名、大学生1名、高校生1名、中学生2名、小学生6名、幼児2名）

森と水辺の手入れ「草刈りとタラの芽のふかし栽培」 2026年1月18(日) 快晴 報告：鈴木郁也

はじめの一時間は刈払い機三台で草刈りを行い、東屋の後背地の台地の上は繰り返しの手入れでだいぶさっぱりと見映えのよい景色となりました。作業終了後、お楽しみとして「タラの芽のふかし」をしました。

タラの芽は山菜の王様とも呼ばれ、おいしい山の恵みとして有名です。リボンをつけて残されたタラの木を、大人の肩あたりで切り、伐採した先の木を15cm間隔で芽を残すようにして切り分けていきます。そして、芽の生える方を上にして水の張った入れ物に立てれば完成です。水換えなど、きちんとお世話をすれば1~2ヶ月後には芽が出はじめるそうです。山菜のお世話を通して植物の生命力に触れることも、自然と親しむ一つの方法ではないでしょうか？ 参加者13名（大人8名、大学生1名、高校生1名、小学生2名、幼児1名）

森の手入れ「森の草刈り」 2026年1月25(日) 晴れ

報告：石井健登

冬らしく晴れ渡り、気持ちのよい空のもと、先週に引き続き「リスが住みたくなる雑木林」を目指し、タラの木広場周辺で森の整備を行いました。刈り払い機（2機）や切り鋏を使用し、過度に繁殖し、育成対象樹木の芽や幼木の生育を阻害しているヌルデやアカメガシワ、ササの下刈りを行うとともに、鋸を使って樹木の除伐を実施しました。これにより、リスの食料となるクルミやクリの芽、幼木に十分な日光が届く環境を整えることができました。また、伐採したヌルデやアカメガシワは、子どもたちと一緒に運び、森の中の道の目印とし



て活用しました。寒さの厳しい時期ではありますが、心地よい日差しのおかげで、森の中での作業はとても気持ちよく感じられました。

小学1年生と年少の子どもたちは、それぞれ「自然観察会用に道を作った！」「笹の葉が手袋にくっつくのが不思議だね」などと話しながら、自分にできることを見つけ、新しい発見を重ねつつ、整備中の森の中で生き生きと活動していました。

参加者12名（大人8名、大学生1名、小学生2名、幼児1名）

＜小山町での活動＞

☆第238(1)回 小山町 YPP「田んぼと林の手入れ」1月18日（日）晴れ 報告：江澤芳江

「20年ぶりに谷津田に来ました」というボランティアの方も含め6人での作業でした。最初は学校田んぼ脇の暗渠にまで広がっていた土を畦に積み上げる作業。あっという間に終わって、次は谷津田際の斜面林の篠竹、アオキの伐採をしました。「篠竹はイノシシのすみかになる」という話も聞きながら一生懸命切っていたら体もホカホカに温まり、斜面林もだいぶスッキリしました。「大勢で作業するとどんどん進んですごいなあ」と改めて思いました。

参加者6名（大人6名）

☆第238(2)回 小山町 YPP「田んぼと林の手入れ」1月23日（金）晴れ 報告：柳町健治

天気に恵まれた中、ボランティア含め8名のメンバーで前回に引き続き、谷津田の際まで繁殖してきた篠竹をメインに伐採を行いました。おかげさまで風通しの良い斜面林ができつつあります。作業の後、皆で地主さんを囲んでの楽しい団欒もありました。

参加者8名（大人8名）

【谷津田・季節のたより】 2026年 1月

＜下大和田町＞ 報告 平沼勝男

1/24 谷津田でシジュウカラ、シロハラ、アカハラが姿を見せてくれました。U字溝から1羽のヒクイナが飛び出し、田んぼに入りました。田んぼにもう1羽のヒクイナがいて、計2羽に。ヒクイナは、以前は夏鳥でしたが今では冬でも見ることができます。昨年復田した田んぼわきの小川に残っていたウシガエルの畠に、小型のウシガエルが入っていました。休眠状態でした。可哀そうですが駆除しました。

＜小山町＞ 報告 高山邦明

1/2久しぶりにキセキレイの姿を見る。 1/5 センダンの実を食べに集まっていたヒヨドリがオオタカの姿を見て一斉に飛び立つ。 1/6 全面に張った田んぼの氷の上でセグロセキレイが足を滑らせながら餌探し。 1/12 アオバトの鳴き声を聞く、スギの木のてっぺんにノスリが止まり谷津を見下ろしていた。 1/13 冷え込みで田んぼに氷が張っているせいか、水が流れるコンクリート水路の中でヒクイナが餌をさがす、ガビチョウがキビタキの鳴きまね、ミソサザイの姿を見る。 1/16 林の木の枝に止まっているオオタカをハシボソガラスがしつこくモビング。 1/22 今季初めてタシギの姿を見る。 1/26 クサシギが2羽で田んぼの周りを飛翔。 1/27 コガモ4羽が田んぼに来ていた。 1/28 水辺をあまり離れないセグロセキレイが畠でハクセキレイと一緒に餌を探していた。

【イベントのお知らせ】主催：NPO法人 ちば環境情報センター

＜下大和田谷津田＞ 連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

・森と水辺の手入れ

日 時：2026年 2月15日（日） 9時45分～12時 雨天中止

内 容：マイ田んぼ復活のための整備と森の木の整備などを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・森の手入れ

日 時：2026年 2月22日（日） 9時45分～12時 雨天中止

内 容：森の木の整備や下草刈りを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第314回 観察会とゴミ拾い

日 時：2026年 3月 1日（日） 9時45分～12時 雨天決行

内 容：ニホンアカガエルの卵塊調査を中心に、春を迎える谷津と森を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100円

＜小山町谷津田＞

・第239(1～3)回 小山町 YPP「田んぼと林の整備」1月に続いて田んぼや林の手入れをします。

日 時：2026年 2月14日（土），16日（月），27日（金） 10時～12時 ☆小雨決行

場 所：小山町谷津田（千葉市緑区）

持ち物：できればくるぶしまで覆う丈夫な靴や長靴（田んぼには入りませんが、竹やぶやぬかった道を歩くので）・軍手・飲み物☆どなたでもお気軽に参加いただけます。

初参加も歓迎です！参加のご希望、お問い合わせは、ceic.ypp.oyama@gmail.comまでメールでご連絡下さい。

